

パラアート国際交流活動

公益財団法人 日本チャリティ協会

〒160-0004 東京都新宿区四谷 1-19 中沢ビル 4 階

助成事業の概要

パラアートとは、当協会が提唱する障害者アートの呼称であり、障害者の芸術文化の振興と才能開発及び社会参加を促進させるための運動である。

パラアートの国際交流活動事業は、障害者の芸術・文化活動の国際交流を発展させるための事業であり、2020年に東京オリンピック・パラリンピックに併せて開催を予定する「2020パラアート国際交流展」の実現に向けた基礎づくりとなるものである。

障害者アートの活動グループは、国外にも既に存在しているが、障害者アートの分野を網羅する呼称は無く、また、その交流拠点となる国もまだ無い。

東京オリンピック・パラリンピックの開催に併せてこの企画を実現し、将来に向けて活動を継続して行うことは、障害者の芸術活動の国際交流を促進させ、障害を持つ人も持たない人も、共に生きる社会を実現するために有意義な役割を果たすことができる。

そこで、この活動に携わる関係者と交流し、実践研究を進めるなかで、独自の障害者アートの拠点づくりをめざすものである。

事業の成果

1. 「2016パラアート TOKYO 国際交流展」の開催

専門家により審査、選出した関係諸国の障害者

アートの作品を展示し、パラアートの魅力について広く周知する場を設けることができた。

期 日:平成 28 年 7 月 15 日(金)から 19 日(月)まで 会期 5 日間

場 所:豊島区センタースクエア（豊島区役所 1 階）

内 容:日本・中国・韓国を中心に海外 19 カ国の障害者の書と絵画 135 点を展示した。

絵画 107 点(海外 52 点、国内 55 点)書 28 点(海外 11 点、国内 17 点)

来場数: 1,252 人

2. シンポジウムの開催「障害者アートの未来」

2020年に開催される東京オリンピック・パラリンピックに向け、パラアートの位置付け発展を目指し、各国で活躍する有識者の多才な活動とともに、障害者アートの未来について意見交換を通し、国際的発展を意図し開催した。

山本貞氏（日本芸術院会員）、建畠哲氏（多摩美術大学学長）、高野之夫氏（豊島区長）、八代英太氏（元郵政大臣）、劉喜欣氏（中国山東美術館副館長）、周銃延氏（韓国ソウル大学アジアセンター主任研究員）がパネリストとして、古屋和雄（元NHK アナウンサー）氏の司会で進行した。

3. 「パラアート国際交流連絡協議会」設立準備会の設置

「2016パラアート TOKYO シンポジウム」の討議を受け、今後、国際的なパラアートのネットワークをどう構築するか、世界の障害者アーティ

ストの文化交流と調査研究、実践的研修の場となる拠点の形成に向けて検討した。

この会議には、韓国から韓国障害者文化振興院申理事長、韓国障害者美術協会金会長、ソウル大学アジアセンター周主任研究員の3名、中国から中国山東美術館劉副館長、日本から日本チャリティ協会高木会長、2016パラアート TOKYO 実行委員会八代委員長などが参加し、会長に日本チャリティ協会高木会長、副会長に韓国障害者文化振興院申理事長が、事務局長にジャーナリストの足立氏が就任した。

成果の広報・公表

1. 公益財団法人日本チャリティ協会「公式ホームページ」での広報

- ・美術展開催概要、出展作品等の紹介

2. 「クォタリー・ニュース」（発行部数2,000部、編集発行：日本チャリティ協会）での広報

- ・「2016パラアート TOKYO」展開催記念特集ページとして収録

3. 「2016パラアート TOKYO」報告書の作成（発行部数1,000部）関係諸団体等への広報

- ・「2016パラアート TOKYO」国際交流展出品作品の紹介
- ・「2016パラアート TOKYO」国際交流展記念シンポジウムの再現
- ・「パラアート国際交流連絡協議会」設立準備会の概要

4. 「2016日・韓・中障害者書画交流展」での広報活動

期 日：平成28年10月4日（火）から7日（金）まで 会期4日間

場 所：韓国国会議員会館3階ロビー（ソウル市）
内 容：作家と共に、パラアート・コーナーでの広報活動

5. 「専門学校アート&デザイン展」との連携展での広報活動

期 日：平成29年2月22日（水）から28日（火）まで 会期7日間

場 所：東京都美術館（台東区上野公園内）

内 容：パラアート・コーナーでの広報活動

6. 「第16回全国障害者芸術・文化祭あいち大会」での広報活動

期 日：平成28年12月9日（金）から11日（日）まで 会期3日間

場 所：名古屋三越特設ギャラリー

内 容：パラアート・コーナーの運営

今後の展開

今後は、本年度結成した連携組織「パラアート国際連絡協議会」の更なる充実を図り、障害者アートの宣揚に努めていく。また、広報活動として、平成29年度は、日中韓三カ国障害者の「書」に関する展覧会の開催を、平成30年度は写真を中心とした作品展の開催を企画している。これらの企画展を通じながら、2020年東京オリンピック・パラリンピックまで、実践的研究を重ね、作家交流の促進と文化の発信力の強化を図っていく。

1. 「2017パラアート TOKYO 書」展の開催 内容：日本、中国、韓国を中心としたアジア諸国の障害者の「書」作品展

作品：120点＜日本国内50点、アジア諸国40点、文化人特別展示30点＞

期日：2017年10月（予定）会期5日間

会場：としまセンタースクウェア（豊島区東池袋 豊島区役所 1 階）

主催：公益財団法人日本チャリティ協会

共催：豊島区

協力：奎星会（代表：堀吉光）

2. 「2018 パラアート TOKYO 写真展」の開催（企画）

3. 「2020 パラアート国際交流展」の開催（企画）